

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2014年4月13日聖日礼拝

---

受難節に入る

「キリストの辱めを負って」

ヘブル人への手紙

13章 7-13節

竿代照夫 牧師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### ヘブル人への手紙13章7-13節

新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp406~/ 第三版の聖書はp442~

7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならないなさい。

8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。

9 さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません。食物によってではなく、恵みによって心を強めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでした。

- 10 私たちには一つの祭壇があります。  
幕屋で仕える者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。
- 11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。
- 12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

# 説教

受難節に入る

「キリストの辱めを負って」

ヘブル人への手紙13章7-13節

竿代照夫 牧師



## 主テキスト

「イエスも、ご自分の血によって民を聖なるもの  
とするために、  
門の外で苦しみを受けられました。  
ですから、私たちは、キリストのはずかしめを  
身に負って、  
宿営の外に出て、みもとに行こうではありません  
んか。」

(ヘブル13:12-13)

# 1. ヘブル書概観

- 宛先：ヘブル人(ユダヤ人)クリスチャン
- 目的：同胞からの迫害と棄教への圧力に耐えるように励ますこと
- 著者：不明、しかし、パウロの同労者で、同じ思想を持った人
- 著作年代：AD60年代後半
- 内容：キリストの卓越性



## 2. 13章の内容：ヘブル書全体の纏めと 愛の実践の勧告

- ・7節：「指導者たちの模範に倣え」
- ・8節：「変わり給わない主イエスを見つめよ」
- ・9節：「律法ではなく、恵みに生きよ」
- ・10節：「聖餐はクリスチャンの祭壇」
- ・11節：「生贄制度における、  
血と体の扱いの違い」
- ・12節：「キリストは門の外で苦しみました。  
その血は完全な聖化を齎す」
- ・13節：「キリストの辱めを身に負う恵み」

### 3. キリストの辱めを身に負う

- 「はずかしめを身に負って」: 十字架の苦難
- 「宿営の外に出て」: ノーをノーと言う勇気を持つ
- 「みもとに行こう」: 主の足跡に倣おう

## 4. キリストの弟子たるの道

- 自分を捨てる
- 自分の十字架を取る
- キリストの後に付いて行く

おわりに

十字架を担う光栄  
クレネのシモンの祝福